

今日のトピック **米国株式市場の見通し**
「情報技術」セクターがけん引しよう

ポイント1

上昇基調は継続
通商摩擦懸念の高まりが重石

- S&P500種指数は2月8日の2,581.00を底に反転し、上昇基調となっています。3月に入ってからはトランプ大統領の鉄鋼とアルミニウムの輸入関税引き上げの発表を受け、通商摩擦懸念の高まりが株価の重石となりました。輸入関税に反対の立場であったコーン米国経済会議委員長が辞任を表明するなど、混迷度を増す場面もありましたが、米国株式市場の上昇は基調として継続していると思われます。

ポイント2

ティラーソン国務長官を解任
対外政策の先行きに懸念が広がる

- 3月13日はティラーソン国務長官の突然の解任を受け、S&P500種指数は前日比17.71安の2,765.31と2日続落になりました。米政府の対外政策に対する不透明感が強まったことなどが背景ですが、米政府の混迷を背景に米国株式市場の先行きが懸念されます。

今後の展開

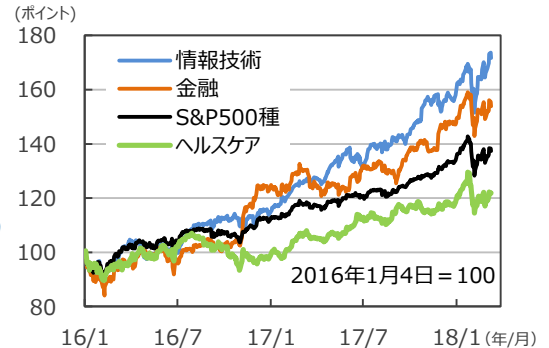
「情報技術」セクターがけん引しよう

- こうした中、米国株式市場のセクター動向に注目する必要があります。米国株式市場を支えているのは、S&P500種指数採用銘柄の時価総額のうち約25%*を占める「情報技術」セクターです。主要なセクターの株価は2月以降戻り基調にあります。中でも「情報技術」セクターは3月12日に史上最高値を更新しました。予想利益の推移を見ても、「情報技術」セクターは相対的に上方修正の度合いが高いと言えます。（*3月12日現在）
- 米国株式市場は引き続き「情報技術」セクターがけん引すると期待されます。同セクターは人工知能（AI）やクラウドのデータセンター等の需要増などが引き続き追い風です。また、通商摩擦の影響も受けにくいと考えられ、引き続き業績の拡大が見込めます。株価は堅調に推移することが期待されます。

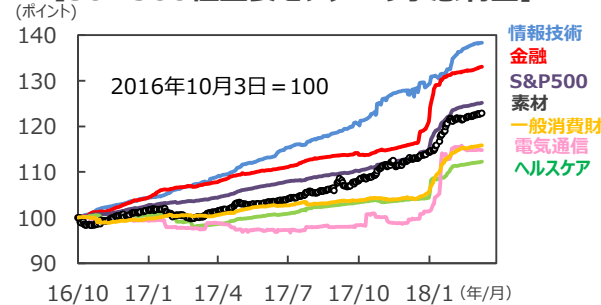


(注) データは2016年1月4日～2018年3月13日。1株当たり予想利益は3月12日まで。株価収益率は株価÷1株当たり予想利益。1株当たり予想利益は12カ月先行 (Bloomberg L.P. 予想)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【S&P500種主要セクターの株価指数】



【S&P500種主要セクターの予想利益】



(注) データは株価指数が2016年1月4日～2018年3月13日。予想利益が2016年10月3日～2018年3月12日。1株当たり予想利益は12カ月先行 (Bloomberg L.P. 予想)。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**

2018年3月12日 「適温」状態が続く米国の雇用統計 (2018年2月)
2018年2月21日 最近の米国経済と長期金利の見通し (2018年2月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。